令和5年度 「地域連携型学校防災体制等構築推進事業」における視察調査 実施報告書

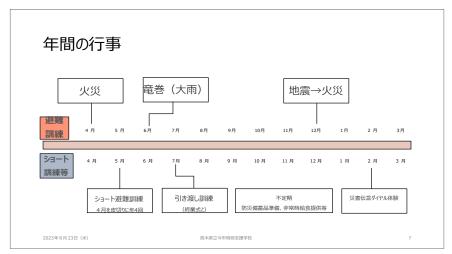
宮城県立金成支援学校

視察先	栃木県立今市特別支援学校
視察日程	令和5年7月31日(月)
	○栃木県立今市特別支援学校 栃木県では、平成27年度から文部科学 省の委託事業である「防災教育を中心とした 実践的安全教育総合支援事業」を実施し、 地震や竜巻、火山噴火など、様々な自然災 害に対する教育プログラムの開発及び活用 を通して、自らの命を守り抜くための「主体的 に行動する態度」の育成を図ることとした。 今市特別支援学校は、平成29年度に実 学校の概要
視察内容	践モデル校に指定され、地震を中心に、火事や竜巻、雷、大雨による洪水などを想定した防災教育を策定していった。同時期に宇都宮気象台の「地域防災教育プログラム」をベースに児童生徒の障害特性に合わせた防災教育・訓練を実践し、児童生徒が分かりやすいような合い言葉(例えば地震のときの合い言葉は「あついだんご」、過
	るときの合い言葉は「おあしすに」というように)を使うなどして現在に至っる。 わかりやすい合い言葉 従来は他の学校同様、「おかしもち」→自閉症等、否定的なことを選げた合い言葉「ああしずに」に変更 地震の時の合い言葉 「あついだんご」 遊難の時の合い言葉 「おあしずに」 遊難の時の合い言葉 「おあしずに」 が

- 1 自分の身を守る防災教育
- (1)避難訓練の事前・事後学習

火災、地震、竜巻などの災害発生時にどのような危険が生じ、どのように回避するか、学校統一規格の視聴覚教材を使って事前指導する。避難訓練終了後はチェックシートを使い、事後指導している。

(2)避難訓練の実際



4月に火災、6月に竜巻(大雨)、12月に地震から火事が起きた想定での避難訓練を実施している他、年に4回ショート避難訓練、1学期終業式に合わせて引き渡し訓練を行ったり、災害伝言ダイヤル体験や防災備蓄品の準備などを実施したりしている。

- 2 教職員の危機管理意識の向上
- (1)防災教材の工夫
- (2)学校防災アドバイザーによる 校内研修の実施
- (3)日頃の取組
 - 事故発生時の対応を各教室に掲示
 - ・ヒヤリハット事例の共有
 - 保健関係(アレルギー対応、 おう吐処理など)
 - ・年度末に職員アンケート

(上) 教室の掲示物。それぞれの災害時の 対応についてコンパクトにまとめている

- 3 保護者等との連携
- (1)引き渡し訓練、地震リュック、災害伝言ダイヤル体験に関する協力依頼
- (2)防災便りに合わせてアンケート実施
- 4 成果と課題
- (1)成果
 - ・6年間の児童生徒の実態を踏まえた継続的かつ一貫した取組
 - ・児童生徒の知識や行動の積み重ね
 - ・児童生徒に自分の身を守ろうとする行動が定着

	・教職員の危機管理意識向上
	(2)課題
	・教材や情報提示の更なる工夫
	・体験を通して知識を深めたり、異なる場面を想定して訓練を行ったりする
	ことで経験値を増やしたりする
	・保護者等との更なる提携の深化
本校の防災教育に 役立つ具体案	・児童生徒が分かりやすい合い言葉の工夫
	・防災学習の工夫
	・事故発生時の対応を教室に掲示
	・地震リュックの教室配備
	・教職員、保護者等及び児童生徒への防災アンケートの実施